



ほけんだより

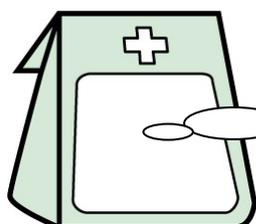
くすりについて



病気になったら、くすりを使用することが多くなります。

くすりには、薬局で買うくすりと医師に処方してもらうくすりがありますが、今回の、ほけんだよりは医師からもらったくすりについてです。

まず、くすりを処方してもらう際には、病気に対してどんな目的で処方されたかについて確認しておくことが大切です。必ず、処方内容どおり飲まないといけないか、症状が改善したら中止しても良いか、頓服の基準は何かなどです。



とんぷく
頓服って何のことでしょうか？

食事とは関係なく、症状に応じて服用するくすりの服薬法のことです。

くすりの副作用

くすりの副作用についても、処方医か薬剤師に確認しておくことが望ましいです。下痢をしやすいくすりか、眠くなりやすいくすりか、または、便秘になりやすいくすりか、他のくすりの影響は受けるか否かなどです。

くすりには副作用がありますが、処方を守って服用すれば副作用が出現する可能性は極めて少ないです。院外薬局の場合は、行きつけの薬剤師さんを決めておけば、複数の医療機関で処方内容が重なった場合でもチェックを受けることができますし、いろいろなことを相談しやすくなります。

服薬法のこつ



食前（空腹時）服薬について

食前にくすりを服用する方が吸収される率は多少良いかもしれませんが、食後に服用しても効果は変わらないと考えられています。

食前に服薬するメリット

- 1) 胃に食物がほとんどないので、患児が苦手なくすりを吐き出す可能性が少ない。
- 2) 患児に吐き気・嘔吐がある場合などです。

薬はたくさんのお水（水分）で服用する

散剤を体の中に十分に吸収させるためには、約 180ml の量が必要です。少量の水で服薬した場合、くすりの吸収が遅れたり、胃や食道粘膜が刺激を受けることがあります。

いろいろなものに混ぜて飲ます際の注意

散剤を直接飲食物に混ぜて飲ませる場合、主食が粉ミルクや牛乳などのときは、ミルクや牛乳を嫌いにならないように、なるべく避けて、他の物で服薬させるようにしましょう。

散剤を服用させる工夫

水剤に混ぜる、練って口の中につける、砂糖水に溶かす、コーヒー牛乳に溶かす、アイスクリームに混ぜる、プリンに混ぜる、ジャムに混ぜる（ついでにお子様せんべいに挟む）、オブラードに包むなどがありますが、混ぜているときを子供に見せないようにする方がうまくいきます。無理やり飲ませようとすると服薬しなくなることが多いので、気長に対応することも大切です。

熱さましの使用のタイミング

発熱疾患に対する解熱剤は対症療法ですので、解熱剤で熱が下がっても治ったわけではありません。熱で衰弱した場合や倦怠感が著しい場合に使用して体力の確保を図ることが解熱剤の使用目的です。不要な使用は避けましょう。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>